



板橋区 環境教育の情報の収集・発信地

エコポリスセンター設立20周年

もっと若者が集まる 環境活動の拠点に！

来館者数
延べ**370万人**



地下1階

1995（平成7）年は、阪神淡路大震災。そして、世界の自然生態系を守る視点を入れた画期的な環境リオサミット1992年から3年後、その影響で日本で地球環境の保全をはじめ取り上げた「環境基本法」1993年の2年後。この年に板橋区では、環境への持続可能な社会を目指して、エコポリスセンターを設立。そして、4月2日にリニューアルオープンし、20周年記念式典が行われました。

私たちは登録環境教育団体として日常的に、エコポリスセンターを拠点にして活動しています。今後、もっともっと、多くの環境サークル、特に若者たちが集まる場所、一人ひとりの区民・子どもたち・企業・環境団体・板橋区が活発に環境活動を行っていく拠点として、活動しやすい機器をそろえた場所を提供し、その中で私たちを含む区民自身が、協働・協力の取り組みを推進していく必要があると考えています。

リニューアルしたエコポリスセンター

20年の思いを板橋区資源環境部長・山崎智通氏、3年前より委託事業を行っている学研のエコポリスセンター所長・藤巻寛太氏に伺いました。

エコポリスセンター開設 20 周年にあたり

板橋区資源環境部長 山崎智通氏

エコポリスセンターは平成7年に、環境情報の発信施設として、また環境教育の拠点としてスタートしました。環境について「知る」「考える」「行動する」をコンセプトに環境教育等を推進し、全国に、同様な施設が作られるきっかけとなった施設です。当時、私は環境保全課の職員として、



NPO法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

◎年次総会 5月30日(土) 14時半～16時半 レストランまき

◎出版を祝う会 同日 17時半～20時半 音楽演奏有 同会場

10周年記念出版 *～みんなワクワク・どんどん使える～*
「soe環境教育実践集」保幼小版



出前授業やエコイベントを行う指導員さん

エコポリスセンターの展示計画など開設準備を手伝っていました。開設してからは、エコポリスセンターの職員として環境講座やイベント、そして施設管理、施設見学対応など忙しい毎を送りました。その後、人事異動を重ね、平成14年にエコポリスセンターの所長として戻って参りました。所長として平成17年7月まで在籍し、その時にちょうど10周年の記念式典

を行いました。来館者も200万人を突破することができました。その後、土木部等に異動し、平成25年4月に資源環境部長として再び戻り、この度20周年を迎えられることとなりました。今、振り返って、私とエコポリスセンターとの縁は、何か深いものがあると感じているところです。

区は、平成22年度よりエコポリスセンターのあり方の検討を進め、そして20周年にあたって、展示什器等のリニューアルを行いました。リニューアルには、新たなエコポリスセンターの来館者(ターゲット)を「子ども」、「(若い、子を持つ)大人」、「環境団体・グループ」とし、学校などが隣接している地理的条件を生かした展示什器の計画を進めました。また、「見える交流できる」「遊び新しい発見」「自然・緑・癒し」の3つをテーマとして整備を進めました。この3つのテーマに基づき、1階には、環境情報・交流コーナーとしてウェルカムウォールやエコライブラリーを設置しました。地下1階には、環境活動・交流コーナーとしてコロコロエコボール、フリー設置映像装置(タブレット)、エコポリクイズ、間伐材利用家具を設置しました。温もりのある華やかで楽しい環境情報発信空間を演出しています。また、スペースをフレキシブルに使用できるようにし、交流の場として配慮しております。ぜひ、皆様のお越しをお待ちしております。新しいエコポリスセンターで新しい発見をしてください。

エコポリスセンター所長 藤巻寛太氏

エコポリスセンターの設立目的は環境保護と省資源・省エネルギー型社会を目指して、環境学習と環境情報の受・発信を推進するための施設です。学習の場の提供、エコロジーをテーマに、区民が自由にコミュニティ活動を行う場を提供します。また、環境にやさしい生活活動等を実践するきっかけを作るため、参加体験型の講座・教室や様々な啓発活動を行っています。

環境、リサイクルに関する情報を収集し提供するインターネットを利用した地球環境情報の収集や発信、環境教育ネットワークもこの一環で、新技術を普及・促進して地球への負担を少なくするシステムを目指します。環境問題について理解を深め、地域に優しい環境を配慮した生活様式をともに考えていくことができます。「知る」まずエコポリスセンターに来ていただき、展示物を見て、体験し、企画展・イベント・講座に参加して頂くこと。「考える」環境観察・環境講座・エコチェックシートなどから身近な環境について考えて頂くこと。「行動する」エコチェックシート・ゴミの分別など身近にできることからはじめ、環境について学んで頂くこと。体験型の施設です。

(『エコポリス』は生態系を意味するエコロジーの『エコ』と都市を意味するギリシャ語の『ポリス』の造語で【現代用語の基礎知識】にも掲載された。)



センターを支えるみなさん

第1回「身近な自然を感じてみよう」◎4月26日



第1回は、大学生10名を対象に、エコポリスセンター・前野公園で、「いもむしのたからさがし」のプログラムを子どもの目線になって紙芝居から野外で体験しました(左の写真)。最近の若者たちは、普通の公園でどんな感想を持ったと思いますか？

◆川面葉月さん—ふだん、毛嫌いしちゃう虫とかよく観察してみると、懸命に生きているということがよくわかり、今まで、穴をつぶして虫たちに申し訳ないことをしたなあと思った。アリが頑張っているんだ。

◆新井千史さん—中学生になってから、自然と触れ合うことがなく、本日の公園のたからさがしはとても新鮮で発見と意外性の連続でした。何気なく嗅いだ葉がいい匂いがした。



◆成田早紀さん—大学生になると自然に触れる機会は勿論のこと、ゆっくり散歩する時間もなくなって、公園で過ごせる時間というのは貴重でした。ペンペン草を見つけた。公園はその地域が見える貴重な場所です。



◆佐々木香奈さん—第一に思ったのはセンスオブアースは一人ひとり大切にしてくれるなということです。うなづきながら目を見ながら聞くという姿勢が自然と身に付き話しやすい環境を作り出す素敵な雰囲気だと感じました。

◆谷津百夏さん—環境教育というとなんだか難しく感じていたが、実際に参加していくと、自分自身が楽しみながら参加していることや、考えたり体験することなんだと気付かされました。

◆平山可奈子さん—葉の裏に小さな虫がいたり、足もとにアリの巣があったり。今まで通ってきたところにも多くの生きものの命や生活があったのだろうなと、自然に対する親しみがわいた。

◆川瀬菜月さん—高校生ぐらいから、外で遊ぶことはほぼなくなり、駅まで歩き、あとはもう、室内にずっといて、暗くなってから帰るため、外を見渡すことはなくなってしまった。季節感もなし。今では虫を見ることさえ、まともにできない。しかし、今日自然は宝だということ、まず触れ合うと感ずることがある。

◆村畑朋花さん—この公園のような環境を維持することに役立てるような大人になれたらと思った。植物は色々あることがわかりました。



◆清水優佳さん—座ってみると、アリが巣を作るために砂の粒を運んでいたり、落ちた葉を見れば、虫が食べた跡があったり、小さな花が咲いていたり、目線を下げてみたら、自然の世界を目で見て肌で感ずることができた。

◆石川歩さん—当たり前にある景色でも視点を変えることでどんどん気付きが出てくる。樹木の中から、子どもが出てきて子どものトンネルを見つけたり、わくわくな1日でした。

2015年度 アースデイ いのちの森

4月18日(土)、19日(日)

<明治神宮の森西芝地において行われる>

草、木、虫、鳥、獣…この豊かな地球にありがたうの気持ちをこめて感謝する日。これがアースデイです。

私たち、センスオブアースも、タンポポの花が咲き乱れる芝生の一角にブースを設けて、参加された親子連れを対象に「自然のたからものさがし」を実施しました。創作紙芝居いもむしのたからぶくろを見たあと、たからものさがしカードを持って限られた



た芝生で自然観察をしました。「タンポポがきれい」「スマイレがかわいい」「いっぱいどんぐりを見つけたよ」「風の音がすごかった」「アリの何かをさがしていたよ」「木の葉がザラザラしていた」…たくさんの発見がありました。

2120年の鎮守の杜を思い描いて…

地球のために行動する日、アースデイの取り組みは1970年にアメリカで始まりました。日本でも、代々木公園で行われるアースデイ東京をはじめ、大阪・金沢など全

全国各地でその取り組みが進んでいます。

その中の一つが、明治神宮で行われるアースデイいのちの森です。普段入ることのできない神宮の杜の小さな芝地で、ネイチャーゲームで四季折々の変化に目を向けたり、自然の木々、竹やどんぐりなどを使って目一杯遊んでみたり、ゆったりとした自然の時間の中でヨガやフラ、野点を愉しんだり…私たちが暮らすこの地球に想いを寄せる、そんなきっかけ作りを2009年からスタートさせています。

さて、そんないのちの森が見据えるもの、それが2120年。

いまから100年ほど前、ただの荒れ地に全国からの献木によって作られたこの森は、当時の森林・造園の第一人者たちの設計図により、その姿が描かれていました。「神社の杜は永遠に続くものでなければならない」という考えのもと作成された森の設計図は天然更新を前提として4段階の林相予想図として示されています。そして、現在、明治神宮の杜はその4段階目、すなわち天然更新する森の完成形に近づいたとも言われています。



1920年の神宮の杜の完成から100年となる2020年。いのちの森では、その節目の年に、次の100年後を見据えた設計図を描くための活動にも力を入れています。明治神宮の杜の移り変わりに寄り添いながら、東京に緑の広がりを作り上げていく。その第一歩として、東京にある公園などの緑をつなぐグリーンコリドープロジェクトも始動しています。

緑の広がりの中で、自然に日々感謝の念を抱き、時に畏敬の念を感じながら暮らす人々の姿。2120年の設計図は、東京中に広がる森の姿だけでなく、そんな人々の姿がみえるものになっているかもしれません。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp